

# ノーベル賞研究者らと会談

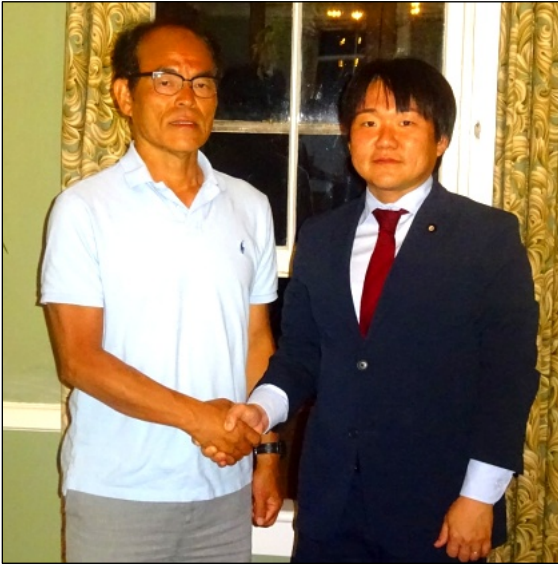
## 山下雄平新聞

<発行元>  
 山下雄平後援会  
 〒840-0801  
 佐賀県佐賀市駅前中央  
 三丁目6-11  
 TEL:0952-37-8290  
 FAX:0952-37-8291

### 科技・宇宙で米国訪問

八月二十日から科学技術・宇宙担当として米  
 国カリフォルニア州を訪問しました。ノーベル  
 賞受賞者の中村修二カリフォルニア大教授と会  
 談したり、宇宙状況監視(SSA)について米  
 空軍と協議したりしました。日米の連携を深め  
 るとともに、科学技術・宇宙政策で世界の牽引  
 役となるべく、施策の重点化を図っていきます。

中村教授は青色発  
 光ダイオード(LED  
 D)の発明で、二〇  
 一四年にノーベル物  
 理学賞を受賞されま  
 した。徳島大卒業後、



徳島県内の企業で二  
 十年にわたり研究を  
 続けられました。大  
 学や研究機関、企業  
 などが首都圏に集中  
 している日本の現状

に危機感を持つてお  
 られました。  
 「日本はいわゆる  
 『難関大学』にばか  
 り税金が投入されて  
 いる。そうした大学  
 はもつと自己資金を  
 集める努力をするべ  
 きだ。国の科学技術  
 研究費などは地方の  
 大学や企業に振り向  
 けることを考える必  
 要がある」と指摘さ  
 れました。  
 米国滞在中は、米  
 軍の宇宙政策を統括  
 するヴァンデンバー  
 グ空軍基地も訪問し、  
 宇宙空間の人工衛星  
 やゴミ(デブリ)など  
 の状況監視(SSA)  
 について協議しまし  
 た。  
 地球の周辺には無  
 数の人工衛星やデブ  
 リが浮かんでいて、  
 今後各国がさらに  
 たくさんの衛星を射  
 ち上げていくため、  
 宇宙空間はもつと混  
 雑していきます。  
 デブリなどが人工  
 衛星にぶつかり破損  
 してしまえば、私た  
 ちの生活や経済、安  
 全保障に大きな影響  
 が出ます。  
 他国の人工衛星を

### 防災意識向上を旗振り



今年の夏から秋にかけ、台風  
 や豪雨、地震と大きな災害が次々  
 に起こり、各地で甚大な被害  
 をもたらしました。防災政務  
 官として総理大臣官邸や被災  
 地で対応に当たりました。

特に九月には台風二十一号  
 が近畿地方などを襲った翌日  
 に、北海道で地震が発生し、  
 複数の災害対応を同時に進め  
 なければならない事態となり  
 ました。近畿でも北海道でも

広範囲で長時間の停電となり、信号機も機能なくなり、物流が麻痺してしま  
 いました。平時から多様な電源を整備する必要性を改めて痛感しました。

個々人の防災意識の向上も重要です。インターネットの「Yahoo! JAPAN」さん  
 は、ネット上で「防災模試」を解いてもらうことで防災意識を高めていこう  
 という取り組みをなさっています。八月三十日には「ヤフー全国統一防災模試」キ  
 ャクオフイベントにお招きいただき、三月に実施された第一段の結果レポートを、  
 企画の旗振り役の本木雅弘さんなどから受け取りました。

避難に必要な知識を問う質問でも二割近くの方が正解できていませんでした。  
 まとめていただいた結果を今後の防災政策に生かしていきたいと思ひます。

攻撃する「キラール衛  
 星」を開発している  
 国もあります。  
 米軍は、地上各地  
 に配備したレーダー  
 や宇宙空間に飛ばし  
 たSSA衛星などか  
 ら宇宙の状況を二十  
 四時間三百六十五日、  
 監視しています。  
 日本は現在、米軍  
 から情報提供を受け  
 て人工衛星などの安  
 全を確保しています  
 が、今回の会談で米  
 側は「米国内国でS  
 SAをやっていくこ  
 とは不可能だ」との  
 認識を示されました。  
 日本も防衛省がS  
 SAレーダーを整備  
 する計画で、米側か  
 らは「日本との協力  
 に期待している」と  
 の話もありました。  
 日本は航空自衛官  
 をヴァンデンバーグ  
 空軍基地に派遣する  
 方向です。宇宙空間  
 の平和と安全を築  
 いていくため、様々  
 な手立てを打ってい  
 こうと思ひます。